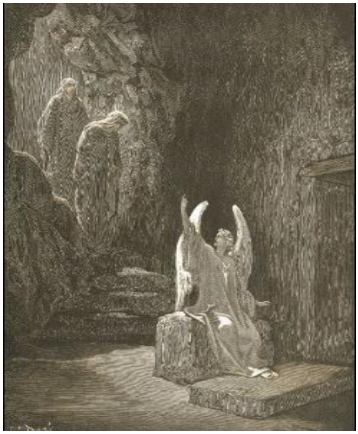
イースター

知っておきたいキリスト教のことば　(13)



イースターとはキリスト教最大の祭りで、最も古くから祝われているものです。しかしクリスチャンでなければ、クリスマスは聞いたことがあってもイースターのことはよく知らないという人が多いと思います。その原因の一つに、クリスマスは毎年 12 月 25 日と決まっているのに対し、イースターは年によってその日が変わるということもあると思います。

「復活日（イースター）は 3 月 21 日（春分の日）以後の満月の後の最初の主日（日曜日）」、という祈祷書の言葉を聞いて、来年のイースターの日付がすぐにわかる人はすごいと思います。わたしは教会の手帳やカレンダーに頼りっぱなしですが。

さて、イースター（Easter）という言葉ですが、「暁」または「春の女神エイオストレ」(Eostre)が語源であると考えられています。わたしは東(East)から太陽が昇るのでそのことと関係があるのだと思っていましたが、そのような説は見当たりませんでした。ともかく英語では「春の祭り」ということが強調されています。

またギリシア語ではイースターのことをパスカと言いますが、これはヘブライ語の「パスハー(過越祭)」を語源とします。つまりここでは「過越」が強調されているのです。パスカルキャンドルもこの言葉に由来します。

そしてわたしたち聖公会では、この日のことを「復活日」と呼びます。イエス様が十字架につけられて、三日後に死者の中から復活されたということが大切にされているのです。

ちなみにイースターには伝統的に、カラフルな卵がふるまわれます。この卵は「イースターエッグ」といい、新しい命（復活）の象徴とされています。さらに新しい命をたくさん産む（多産である）ウサギも、イースターのシンボルとされています。

次回は「イエス」です。お楽しみに。